

第36回言語文化教育研究学会月例会

日本語教育はテクノロジーと どのように付き合うべきか

日時：10月30日（金）18:00-19:45

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 715教室

発題者 岩崎浩与司（早稲田大学 大学院日本語教育研究科）

近年、インターネットや、スマートフォンなどのデジタルデバイスの普及によって、新しいテクノロジーが急速に私たちの暮らしの中に入ってきています。そうした状況に伴い、教育の分野でも新しいテクノロジーを活用する流れが加速しています。例えば、遠隔教育や遠隔交流は、今まで出会うことのできなかった他者との出会いを促進します。反転授業は、深い学びを実現するアクティブラーニングの可能性を秘めています。MOOC(Massive Open Online Courses)は、高等教育へのアクセスの機会を拡大します。

私は持続可能な社会を築くために、テクノロジーの導入と、それを活用した教育が役立つと考えています。しかし、それと同時に、テクノロジーの使用は、セキュリティを始めとする様々な問題を抱えていることも事実です。また、テクノロジーの使用が意味のある学習や教育にすぐにつながるとも限りません。月例会では、私のこれまでの実践紹介、最近のEdTech (Education×Technology) の議論などの話題提供とともに、以下のようなテーマについてディスカッションができればと思っています。

- ・テクノロジーによって何ができるようになるのか？
- ・テクノロジーと社会の変化によって、教師の役割はどのように変わるのか？
- ・日本語教育はテクノロジーとどのように付き合ってきたのか、また今後どのように付き合うべきか？



参加費：無料 予約：不要（当日、直接会場にお越しください）

問い合わせ：monthly@alce.jp